



令和5年度学校だより 甲府市立南西中学校

**银杏** (いちょう) 第13号 令和6年3月11日(月)発行

●教育指標 「日に 新たに」 ●学校教育目標 「たくましい心と体を持ち 豊かに学び合う生徒の育成」

文責：校長 井上 有史

### 3年生に贈る会

3月6日(水)3年生に贈る会が実施されました。取組期間がとても短かった上に、インフルエンザの蔓延や降雪の影響等で、思うように準備や練習が進まなかった時もありましたが、1,2年生が感謝の気持ちを贈るため、心をこめて創り上げてきました。また、受験シーズンの真っ只中だった3年生も、在校生に最後の勇姿を見せるため、上手に時間を使いながら発表の準備に取り組みました。前日には、1,2年生からユニークな招待状が配布されるとともに、体育館の全空間を使った装飾や、掲示物等会場準備が丁寧に進められました。



贈る会当日の前半は、思い出を振り返るスライドの上映からスタートし、1年生による呼びかけと合唱、2年生による寸劇と合唱、3年生からの合唱とコメント等々、笑いあり、涙ありのとても感動的な内容でした。後半は、応援、ソーランの引継ぎ式、続いて「地球発愛」の全校合唱、記念品贈呈、エンディングスライドと盛りだくさんの内容でしたが、どれも見応えのある素晴らしい内容でした。特に、南西中学校三大文化といわれる通り、気持ちのこもった「合唱」や、気合いの入った「応援」や「全校ソーラン」は、長い間南西中生が引き継いできた伝統がひしひしと伝わってきて、とても感動的でした。また、何より3年生が嬉しそうに参加していた様子が印象的でした。翌日には、3年生から在校生に感謝を伝えるメッセージが贈られ、在校生にとっても貴重な経験とすることができました。3年生から渡されたバトンは、在校生がしっかりと受け継ぎました。3年生の今後の活躍と、在校生のさらなる成長を期待しています。



### 同窓会入会式

3月8日(金)に同窓会入会式をしました。コロナ禍の中ここ数年は実施できなかった入会式でしたが、4年ぶりに、同窓会長竹本勝様をお招きして開催することができました。生徒代表として挨拶をした福島菜々実さんからは、「見守られる立場から見守る立場に変わり、母校のために尽力したい」という心強い言葉が聞かれ、成長を感じました。



昭和35年に開校した南西中学校は、今年で創立64周年、卒業生は今年の生徒を含めると18,573名を数えます。その間、初代校長の苫米地勝衛先生が遺された「日に新たに」の校訓を受け継ぎながら、各界で活躍している人材を多数輩出してきました。本年度、新たに入会した卒業生80名も、先輩方同様今後の活躍を期待しています。

### 第3回学校運営協議会

2月16日(金)、第3回学校運営協議会を実施しました。今回は、本年度の事業報告に加え、学校評価への講評、来年度に向けての役員選考や学校経営の方向性等が話し合われました。会の中では、南西中生があいさつをよくしていることや、ボランティア活動に積極的に参加している様子を評価していただきました。また、学校評価の中で比較的数値の低かった項目について、様々なご意見、ご助言をいただくことができました。特に、「コロナ明け元年」と言われる本年度の学校運営や、多様化する価値観への対応等、学校現場の難しさをご理解いただき、建設的なご意見を多く出していただき、とても心強く感じました。いただいたご意見等は、今後の学校運営に生かしていきたいと思えます。学校からは、地域との連携をさらに深めながら教育活動が推進されますよう、お力添えをお願いいたしました。

## 第62回卒業証書授与式

3月11日、3年生が義務教育9年間の教育課程を無事に終了し、南西中学校を巣立っていきました。入学当初から感染症に翻弄され続けた中学校生活でしたが、常に前向きに、また仲間同士支え合って今日の目を迎えることが出来ました。卒業生に向けたはなむけの言葉を掲載します。

### 令和五年度 卒業証書授与式 はなむけの言葉

春の優しい陽差しが降り注ぎ、校庭の桜の蕾もふくらみ始める季節となりました。今日このよき日に、令和五年度、甲府市立南西中学校 第六十二回卒業証書授与式を挙行できますことは、私たち教職員にとりまして、この上もない喜びであります。本日は、甲府市代表監査委員 望月 伸 様をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り、心より感謝申し上げます。「ありがとうございます。」また、保護者の皆様、お子様は本日を持ちまして、中学校を卒業すると同時に、義務教育九年間を修了されることとなります。長年のご苦勞に対しまして、改めて敬意を表しますとともに、心よりお祝い申し上げます。「おめでとございます。」

八十名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとございます。「昇る」というキーワードを生徒会スローガンに掲げ、「太陽」(これまで続けてきた日常生活に関する取組)、「昇撃」(コロナによりやろうとしてもできなかったつながりに関する取組)、「昇筆」(これまでになかった新しい活動に関する取組)を充実させることを活動方針に据え、言葉通りの活動で南西中学校を導いていただきました。特に、一学期中庭で実施された3年生各クラスの「ソング フォーユー」の歌声は、私にはコロナウイルス感染症を乗り越え、新たなステージの到来を告げるファンファーレのような響きに聞こえ、とても元気づけられたことを今でもはっきりと覚えています。また、いちよう祭では「零」をテーマとし、「感染症による制限緩和後の初めての実施に際し、零から見つめ直し、次の代につなげていけるようなものにしていきたい」という願いを込め、苦勞しながらも新たな伝統を創り上げていきました。皆さんが南西中学校に残した確かな足跡は、これからも引き継がれていくことと思います。

思い起こせば、新型コロナウイルス感染症の流行は、学校生活に様々に影響を及ぼしました。分散登校、行事の縮小、無言給食。本来ならば、思いっきり大きな声で笑い合ったり、語り合ったり、肩を組み合ったり、そんな中学校時代ならではの行動さえ、ままならない日々でした。また、友の顔すら、マスク越しでしか見ることができない期間でした。それでも皆さんは常に前を向き、知恵を絞る、あらゆる努力により、これらの困難を乗り越え、そして新たな伝統を創り上げました。とても立派でした。そんな皆さんの頑張りには、常に学年主任の岡田哲也先生、副主任の中込美香先生、学年教務の高野太陽先生、学級担任の小西拓磨先生、上田美雨先生、佐藤凌湖先生、中澤風音先生はじめ、多くの先生方が愛情あふれる気持で寄り添い、励ましつづけてくれたこと、これから先もずっと忘れないでください。

皆さんが社会で活躍する頃には、様々な革新や変動により、社会や職業のあり方そのものが、大きく変化するといわれています。そのような激動の時代を、たくましくそしてしなやかに歩んでいくには、「自立」すること、多様な他者と「協働」すること、そして、新しい価値を「創造」していくことが必要となります。皆さんには、少し難しい言葉かもしれませんが、でも安心してください。なぜならば、この三つの資質・能力の基礎を、皆さんはこの南西中学校で、しっかりと身に着けたからです。ふるさとに誇りを持ち、堂々と胸を張り、未来に向かって大きな一歩を踏み出してください。皆さんの後ろには、いつでも皆さんを心から応援する家族や先生方、友達、そして地域の方々がいることを決して忘れてはいけません。また、皆さんからたくされたバトンは、在校生がしっかりと受け取り、南西中学校の伝統を引き継いでいきます。

最後になりますが、卒業にあたり、皆さんへのはなむけに、一編の詩を贈りたいと思います。児童文学者の山本有三さんの紹介による詩、「心に太陽を持って」です。

心に太陽を持って。あらしが ふこうと、ふぶきが こようと、  
天には黒くも、地には争いが絶えなかりと、いつも、心に太陽を持って。  
くちびるに歌を持って、軽く、ほがらかに。自分のつとめ、自分の暮らしに、  
よしや苦勞が絶えなかりと、いつも、くちびるに歌を持って。  
苦しんでいる人、悩んでいる人には、こう、はげましてやろう。  
「勇気を失うな。くちびるに歌を持って。心に太陽を持って。」

コロナ禍でも常に前を向き、心に太陽を持ち続けた卒業生の皆さんへ そして、明るく朗らかに歌声を響けてきた卒業生の皆さんへ これから先も「勇気を失うな。くちびるに歌を持って。心に太陽を持って。」

令和六年三月十一日  
甲府市立南西中学校  
校長 井上 有史